

下東小 校内ルール

I 生徒指導・教育相談等に関すること

- いじめ、児童間のトラブル、保護者からの訴え等があったときには、速やかに生徒指導・管理職に報告する。なお、指導等に関して児童への不必要な身体接触は行わない。体罰は厳禁。
- トラブルや事故については、その都度、終礼等を使って報告し、学校全体としての共通理解を図り、前向きに改善の意識をもつ。
- 個人的に児童を指導するときは、原則として複数の男女の教職員で対応する（一人が事情を聞き、一人が記録をとる）。特に密室での1対1の対応は厳禁。長時間の、または重要な指導をするときは、事前事後に管理職に連絡・報告し、原則、（場合によっては児童帰宅前に）双方の保護者に連絡する。児童・生徒を車に同乗させることは禁止。
- 児童・保護者への連絡は、学校の固定電話や緊急連絡用携帯電話から保護者に連絡する。（個人の携帯電話等を使用したり、児童の携帯電話に連絡したりしない）
- 生徒指導上、特別支援教育上なことなどで、保護者と臨時の懇談を行う場合は（懇談場所がどこであっても）できるだけ**複数で対応**し、事前事後に教務や管理職（場合によっては生徒指導主事、特別支援教育コーディネーター）に連絡・報告をする。長時間の電話での対応もこれに準ずる。

II 携帯電話・スマートフォン・パソコン・デジタルカメラ等に関すること

- 個人のコンピュータやタブレット端末などを職務のために持ち込むときは、管理職に相談する。
- 許可なく校内で携帯電話（スマホ）を持ち歩かない。使用しない。やむなき場合は、都度、管理職に相談する。
- デジタルカメラは、学校のものを使用する。撮影した画像は所定のフォルダに保存し、データを外部（家庭や個人の機器等）に保存しない。
- 私的なメールやSNSによる児童・生徒とのやり取りは禁止。児童・生徒の携帯電話・スマートフォンの電話番号・メールアドレスなどは把握してはならない。
- 家庭から児童の携帯電話所持の要望があれば即答せず、相談窓口を一本化する。
- 学校用PCのデスクトップ上に公的、個人的情報関連のものを保存したときは、できるだけ早めに削除する、別に保存する、消去禁止の表示をするなどして、全教職員が使いやすくするように努める。2週間以上あるものは削除される可能性があることを承知しておく。

III 鍵の取り扱い・施錠、公金の取扱いに関すること

- 特別教室の鍵を持ち出す場合には、学年プレートなどを付ける。児童にも同様の指導をする。
- 学校最終退出者は、鍵の所在を目視で確認した後に退出する。無い場合は速やかに該当者や管理職に連絡する。所定以外の場所に置いてしまった、持って帰ってしまったなど自ら気付いた場合は、管理職に連絡する。
- 公私を問わず、金銭を机上や机内に保管したり、立て替えたりしない。公金については、できるだけ早く業者等に支払いを済ませる。
- 玄関の鍵が必要な場合は、管理職に申し出て記録簿に記入する。

V USBメモリ・個人情報の取り扱いに関すること

- 学校用のUSBメモリを使用する。（個人用のUSBメモリは使用しない）
- USBメモリはデータ移動用として扱うことを原則とする。（個人の筆箱などで管理しない）
- 校外に持ち出さない。
- 不要時のPCについては、USBメモリ等の入れっ放しなどに注意する。
- 家庭環境票等個人情報が記載されているものは、教室や校外に持ち出さず、所定の場所で保管する。
- 個人情報（名簿などの文書を含む）については机上に置かない（手渡し）、裏返しにして（名前を伏せて）置くなどの注意を払うよう努め、場合によっては速やかにシュレッダー等で処理する。

VI 交通事故・飲酒運転の防止等

- 交通事故・交通違反は、勤務中・勤務外を問わず、軽微な場合も速やかに管理職に報告する。
- 飲酒運転を絶対にしない。
 - ・ 飲酒する場合は会場には車で行かないなど、事前に参加者で帰路について声を掛け合っておく。
 - ・ 飲酒後、明朝から運転する場合は、飲酒時間・飲酒量・翌日の通勤手段等をよく考える。
- 運転免許証の提示要請には速やかに協力し、更新期限を厳守する。

VII その他

- 朝の健康観察時に無届けで欠席している児童がいた場合には、速やかに(8:20～1時間目終了まで)、必ず家庭に連絡を取る。また職員室に現状を連絡(8:20～8:45)する。（児童登校後は、担任は改めて職員室へ必ず報告する）【安否の確認】
- 担任は保健室利用の決まりに沿って対応し、疾病時は保護者や養護と連絡を取り合う。早退の場合は疾病以外の理由でも、担任または養護教諭などが必ず管理職に連絡する。
- 個人情報関連のものや一時保管の公金、鍵類などを紛失した場合は、早めに、管理職に報告する。

不祥事を起こさない三箇条

- 一 不祥事は、自分にも起こりうる可能性がある」と真摯に受け止める
- 一 自分の後ろには、児童・保護者、家族がいることを忘れない
- 一 気掛かりなことは、周囲に相談する。一人で抱え込まない